

柏支部だより

* 柏支部のホームページが開設しました!!

かねてから準備してまいりました柏支部WEBサイトが先日めでたく開設されました。時に、建築士会の会員でありながら‘どんな活動をしているかわからない’などというお言葉を耳にすることがあります。実は結構なイベントを開催しているのですが・・・。
当サイトにはそのようなイベントや研修会、活動の状況など知りたい情報が満載です。ぜひ定期的に覗いて見てくださいね。そして興味のある事業にはどしどしご参加ください。

ドメインは、<http://arc-kashiwa.com>です。

さらに、会員のWEBサイトを紹介するページを設けました。会員個人のものから経営・勤務する企業のサイトまで、建築士会会員であることのPRにもお役立てください。詳しい掲載方法は当サイト内のお問い合わせページから掲載希望のメールをお送りください。

他にも、掲載希望の記事などございましたら是非ご意見をお寄せください。
また、千葉県建築士会（県）のホームページからもアクセスできるようリンクしておきます。こちら情報満載ですから、ぜひご覧くださいね。
それでは、たくさんの方の会員皆様のアクセスを待ってま～す(^_^)。

* ドメインの arc とは architect の頭文字を採りました。

総務・広報部会 WEB担当より

* 平成23年度柏支部の主な活動報告

- ・ 4月21日（木） 第1回理事会
- ・ 5月14日（土） 平成23年度柏支部総会、懇親会、第1回三役会
- ・ 6月17日（金） 第2回理事会
- ・ 6月19日（日） 不動産関連士業交流会
- ・ 8月5日（金） 第3回理事会
- ・ 9月15日（木） 講習会
- ・ 9月17日（土） 交流・親睦会(そばうちの会)
- ・ 10月14日（金） 第4回理事会
- ・ 12月3日（土） 研修旅行 次ページに特集を組みました
- ・ 12月9日（金） 第5回理事会
- ・ 1月14日（土） 合同新年会
- ・ 3月9日（金） 第6回理事会

理事会は議事録、その他には活動報告があります。
興味のある方はお問い合わせください。また、一部ホームページでも閲覧できるようになっております。
これからは、支部だより、ホームページともに、ますます充実させていく予定です。

今年度の柏支部総会は、5月19日（土）です。

意見を述べるチャンスです。参加しましょう。

プロローグ

□ 横浜開港と生糸貿易

1854年(安政元年)ペリーが上陸し、「日米和親条約」を締結したことから、新しい横浜の歴史がはじまる。当時の横浜村は、東海道筋や、神奈川宿、神奈川湊から離れた、漁師小屋が並ぶ半農半漁の小さな漁村でした。

1858年(安政5年)「日米修好通商条約」の締結により、1859年(安政6年)横浜港は長崎、函館等とならび開港され、元町と居留地間に堀川が開削され、山下居留地が開かれました。入り口のある吉田橋や前田橋のたもとには関所がおかれたので、関内居留地とも呼ばれ、主に外国商社が立ち並ぶ商業区域となりました。やがて明治政府により横浜は神奈川県を中心になってゆきます。

貿易が始まると横浜港からは多量の生糸が輸出されます。

横浜港へ出てくる生糸は、開港当初奥州(福島)、上州(群馬)、信州(長野)から出荷されたものが多く、明治に入るとしだいに上州が多くなり、明治12年では信州、上州が50%以上をしめ、奥州、武州、甲州を含めると、この地域で80%~94%を生産し輸出していました。

□ 三溪と三溪園

原三溪(本名 富太郎)(1868年(慶応4年)~1939年(昭和14年))は岐阜県で生まれ、1892年(明治25年)横浜の豪商原家に入り、明治時代末から大正時代にかけて製糸・生糸貿易で財をなしました。父善三郎が購入した“三之谷”に父の死去後、1902年(明治35年)ごろから三溪園の造園に着手し、住まいとしての鶴翔閣を建て三溪園の地を本宅としました。

三溪は、事業のかたわら仏画、茶道具などの収集をおこない、古美術品のみならず、古建築を購入・移築、現在の三溪園の形をつくりました。

1906年(明治39年)には、現在の外苑を無料で市民に公開し、その後も建築物の収集と移築をおこない、第二次大戦中に大きな被害を受け一部を失ったが、昭和28年(財)三溪園保勝会が設立され今日に至っています。

なお、旧燈明寺本堂、旧矢筈原(やのはら)家住宅などは戦後に移築されたものです。

建物見学

今回、「紅葉の古建築公開」にあわせて三溪園と、横浜市中区散策(洋風建築物の見学)、そして中華街で中華料理を味わう企画で実施しました。

日頃、日本建築を多く手がけている、支部会員の渡辺哲也氏より横浜到着までの車中、飛鳥時代から鎌倉時代までの、主に社寺建築と茶室の基礎的な話をさせていただきました、各時代における様式の名称、出組、肘木などその違いと特徴について、また、茶室の概略について解説させていただきました。

同じ見学会でも、明確な目的と意識を持って対象を観ることで理解の内容には大きな差が生じます。今回、渡辺氏から古建築を観るときのポイントを教えていただきました。

三溪園では、公開中の春草廬、横笛庵、旧東慶寺仏殿を中心に建物の内部を見学することが出来ました。建物の保存には「現地保存」と「移築保存」があり、その可否についてよく議論されます、三溪園では「移築保存」にもかかわらず、初めからこの敷地に計画されたように、環境にピッタリはまり込んでいます。

犬山の「明治村」や川崎市にある「日本民家園」また小金井の「江戸東京たてもの園」と比較して見ると面白いと思います。



ペリー一行の上陸



臨春閣



春草廬

春草廬（重要文化財）

建築年：江戸時代
移築年：大正 11 年

織田有楽斎の作と伝えられている、三畳台目の小間である。茶室内に九つの窓があることから、かつて九窓亭と呼ばれ、多くの窓があり明るい華やかな茶室である



草笛庵

草笛庵（田舎風草庵）

建築年：明治 41 年



旧東慶寺仏殿

旧東慶寺仏殿（重要文化財）

建築年：江戸時代（寛永 11 年）
移築年：明治 40 年

鎌倉の東慶寺にあった仏殿、
禪宗様の仏堂

横浜に来て中区の洋風建築を見る機会がなく、急ぎ足でまわりました、明治末から大正・昭和初期に建てられたものですが、保存修復の状態も良く、現代社会にあった保存、利・活用が行われているようです。あらためて一つひとつの建物をゆっくり鑑賞したいと思います。後日ですが、昭和 2 年築のホテルニューグランド本館に宿泊することができました。

中華街の中国料理店

支部会員の紹介で中華街大通りに面した、広東料理「新新」にてコース料理をいただきました。いつも単品料理を基本にお店を決めていたので久々のコース料理です。中華街も歴史が古く、老舗から新興店まで、それぞれ特徴のある店が軒を連ねています。少しばかりの紹興酒と料理を食し、相互の親睦と意見交換ができた充実した時間でした。

あいにく、他の行事と重なり今回の研修に参加できない会員が多かったようですが、次回・研修会は多くの会員が参加できるよう楽しく有意義な企画・開催をしたいと強く思った一日でした。

*本部委員会活動紹介（広報委員会）

千葉県建築士会、常設委員会が設置されています。活動内容がわからないとの意見を聞きますので、順次紹介していきたいと思います。

今回は、広報委員会です。

皆さんの手元に毎月送られてくる「建築士」と「建築士ちば」は、年会費の中でかなりの割合を占めています。この、「建築士ちば」を編集しているのが広報委員会です。

また、ホームページの担当もしています。

月1回の編集会議が開かれ、読み合わせ、企画などを話し合っています。私は昨年途中からの参加でやっと慣れてきたところですが、会議に出席するたびに新発見があり、なかなか勉強になります。

皆さん、「建築士ちば」では一般会員の投稿も歓迎しています。

ホームページから広報委員会のページへ進むと、広報誌原稿のテンプレートがあります。これを使って投稿して下さると助かります。

事前の調整、締め切り期日などがありますので、広報委員吉川まで相談してください。

もちろん、感想、ご意見も大歓迎です。

さて、広報委員会では皆さんに活動の様子を知ってもらうため移動委員会を設けることがあります。建築会館での会議ではなく、県内各地へ出かけて行って会議を開くのです。

実は3月7日にその「移動委員会」がお隣の松戸支部で開かれました。

今回は、会議の前にJR東日本さんの協力によりJR武蔵野線、3月17日開業予定の吉川美南駅の駅舎見学をさせていただく機会に恵まれました。

吉川市の要請により、開業が決まった駅ですが、線路上はJRの所有の土地、ロータリーのひとつはURの土地、もうひとつは吉川市の土地と確認申請だけでも相当面倒だったこと。しかも、工事ができるのは終電と始発の間の一日3時間ほどだけだったなど、完成までの苦労の様子がお話から伝わってきました。

また、最近の駅舎の設計上の特徴として、線路両側の24時間自由通路を設け住民の利便性をはかっていることが上げられます。これには、営業時間外のセキュリティー問題の解決が不可欠となり、死角とならないよう明るく開放的になっていました。さらに市民のための展示スペースも確保されていました。

確かに今回建築物としての視点で駅舎を見ると、時代とともに着実に進歩しているのだと感じました。バリアフリー化も最初から考えられ、各種サインも昔に比べ大きく見やすく、デザイン的にも優れていると思いました。

もうひとつの特徴は、輸送障害対策としての折り返し設備が設置されていること（武蔵野線がすぐとまらなくなる？）でした。従って、線路が増え、広く取った自由通路部分がどうしてもホームを暗くするため、その部分の床タイルの色を明るくする工夫がなされていました。

建物全体も耐火塗料使用で防火地域の許可を得るなど、経費節減の工夫もされていました。それでも、総工費約72億円、3年強の工期のプロジェクト。大変です。

さて、実は筆者、吉川美香と申します。吉川美までが同じなので参加者から、からかわれ・・・

しかも、鉄子の私は開業前の駅舎にウキウキ他人とは思えない？駅舎に感動です。

もう開業しています。

通りかかった際は、皆さんも違う視点で眺めてみては？



*募集します

1 親睦・交流部会、2 研修・勉強部会、3 総務・広報部会、4 対外活動部会の各部会では、活動部員を募集しておりますそれぞれ理事がリーダーとなり活動を盛り上げるために頑張っています。参加してこそ建築士会です。こんな勉強会、研修会を開いてほしい、広報誌、ホームページなどで取り上げてほしいこと、楽しい親睦会の企画など、ご意見、ご要望も募集します。

支部だよりの原稿も募集しています。特集、支部会員のページなど、我こそは！という方待っています。

*鎌ヶ谷まちなみウォッチングに参加しました！

3月23日（金）、鎌ヶ谷まちなみウォッチングが開催されました。柏支部からは、三浦支部長 稲田氏、竹田氏、吉川の4名が参加しました。皆さんの記憶に新しいとは思いますが、一昨年は柏支部主体のまちなみウォッチングが開催されました。午前中は行政の立場から都市計画、鎌ヶ谷市の取り組みの説明、午後からは実際に説明箇所の散策を行いました。

参加するとボリュームのある小冊子が配られます。行政の取り組み概要、鎌ヶ谷市の変革、歴史さらにタウンガイド、地図などの内容となっています。この小冊子は柏開催の際、まちづくり委員会と柏支部で作ったものが、ひな形となっています。これはちょっと自慢できると思います。話がそれましたね。鎌ヶ谷支部の方たち曰く、「何にも無いんですよ。鎌ヶ谷って・・・」そんなことはありません。ファイターズタウン、梨の生産、鎌ヶ谷大仏・・・

でも、やはり興味深かったのはターミナル駅の宿命。踏み切りの多さと交通渋滞です。新京成線、東部野田線の連続立体交差事業とセットの土地地区画整理事業です。新鎌ヶ谷駅前地区計画では、最低敷地面積規制、建築物の色彩規制、緑化推進、電線類地中化など説明を聞きながらの散策でした。しかも、各方面の専門家のコメントが飛び交い、まさに建築士目線でのウォッチングとなりました。

唯一残念だったのが、雨模様だったこと・・・誰だ？雨男？雨女？

まちなみウォッチング小冊子は、充実の内容です。興味のある方には、お貸ししますので問い合わせてください。



午前中は、講義形式



新鎌ヶ谷駅前に走る東経140度線



建設途中の新京成線高架橋を見ました

吉川美香

*編集人より

間が少しあいたので、ちょっと頑張って作ってみました。ホームページも開設して、総務、広報部会としてもホットしたところです。さて、もうすぐ被災地佐原、一年後の現況と取り組みの視察に行ってきます。次号は秋ごろ発行の予定です。みなさんお楽しみに！

さて、もう1ページありますよ。最後はスペシャルな支部会員のページです。